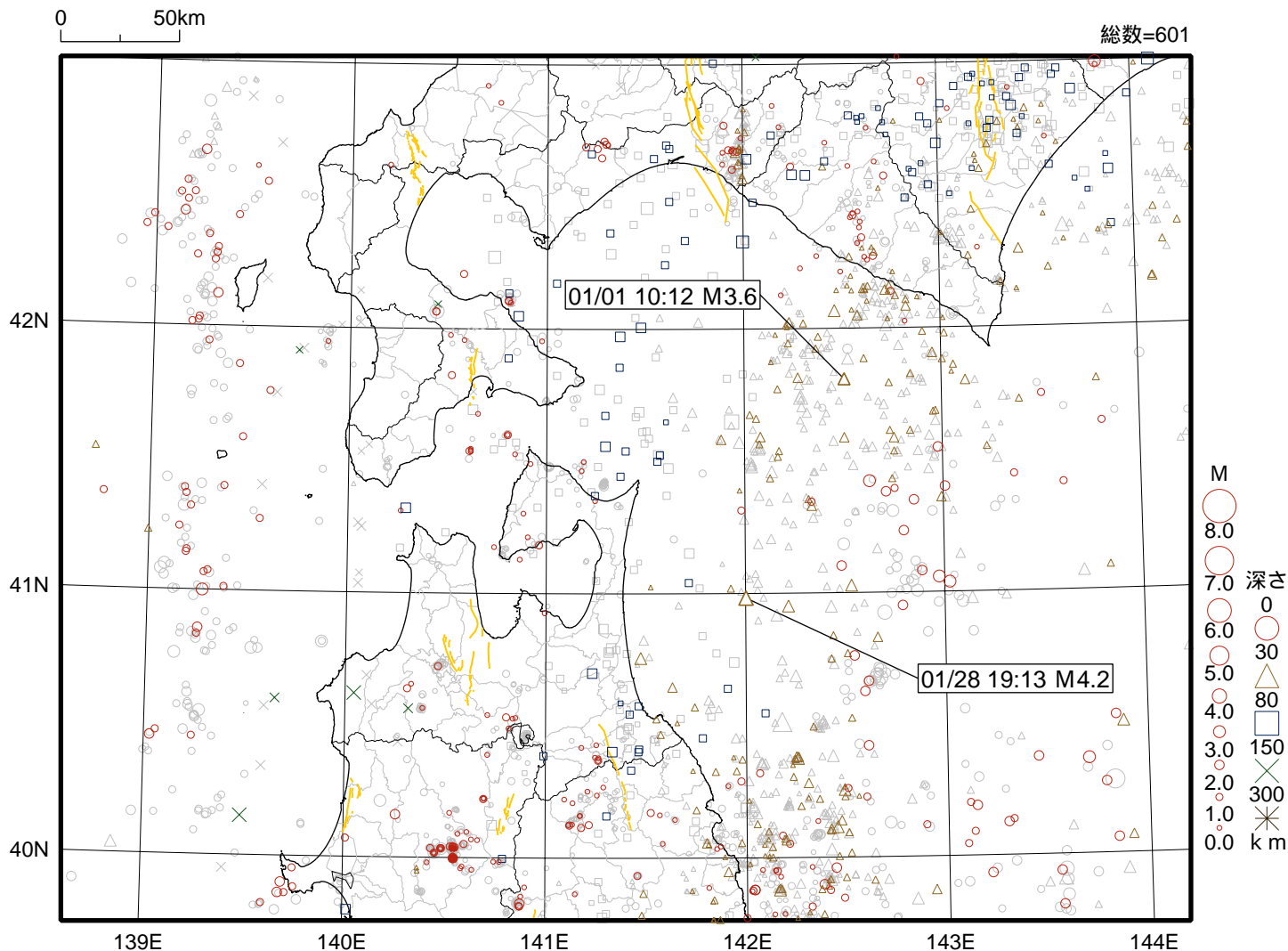


渡島・檜山地方の地震活動図

2020年1月1日～2020年1月31日

震央分布図

函館地方気象台



これは暫定値であり、データは後日変更することがあります。

記号Mはマグニチュードを表します。

図中橙色の線は地震調査研究推進本部による主要活断層を表します。

過去の地震活動と比較するため、前3ヶ月(今期間を含まない)の震央を灰色のシンボルで表します。

地震概況(2020年1月)

この期間、渡島・檜山地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は3回(12月は6回)でした(詳細は「震度1以上を観測した地震の表」参照)。

1日10時12分、浦河沖の地震(M3.6、深さ69km)により、函館市泊町で震度1を観測しました。

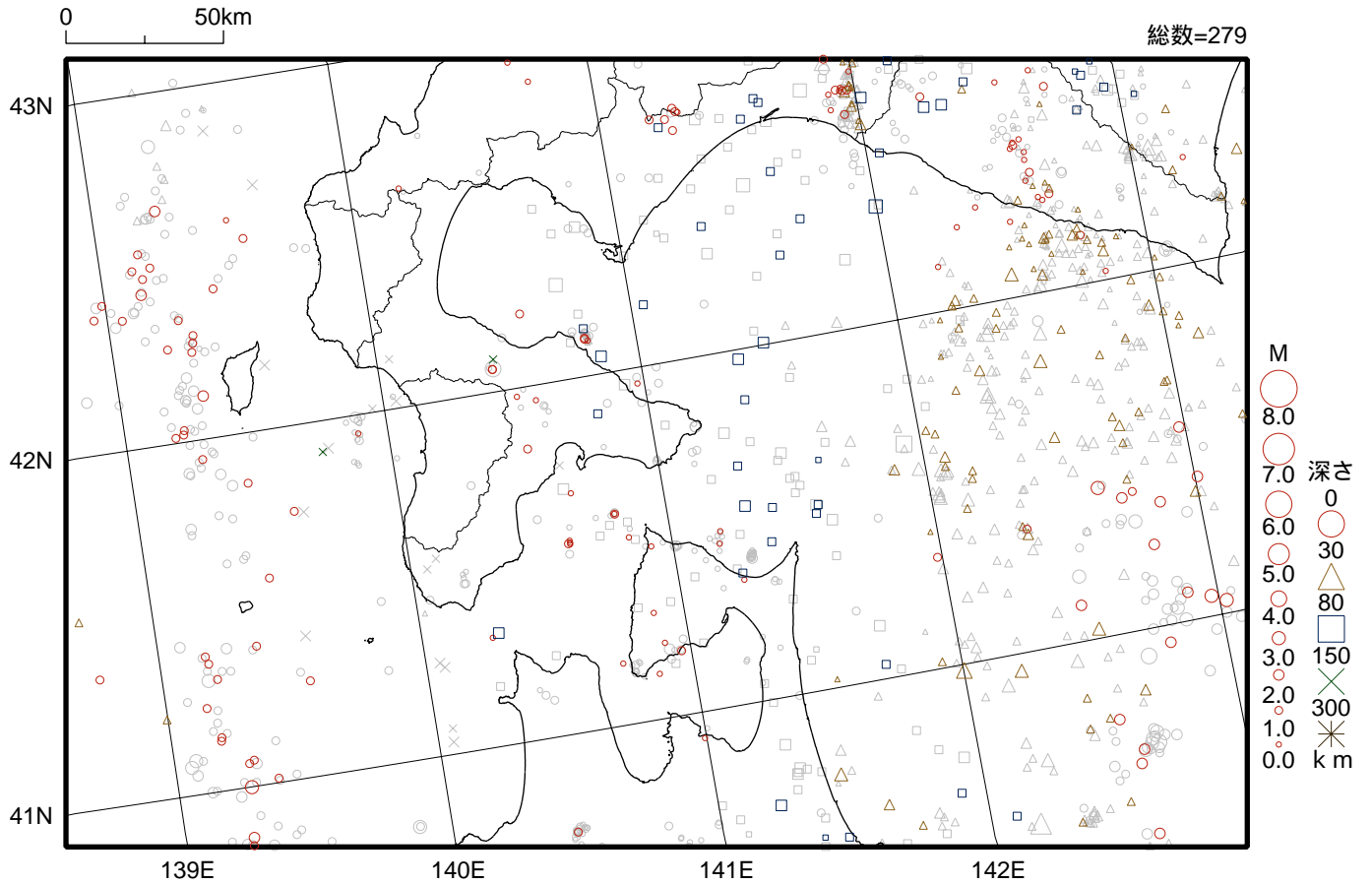
28日10時36分、根室半島南東沖の地震(M5.5、深さ96km、震央分布図の範囲外)により、函館市泊町、函館市新浜町、函館市川汲町で震度1を観測しました。

28日19時13分、青森県東方沖の地震(M4.2、深さ57km)により、函館市泊町で震度1を観測しました。

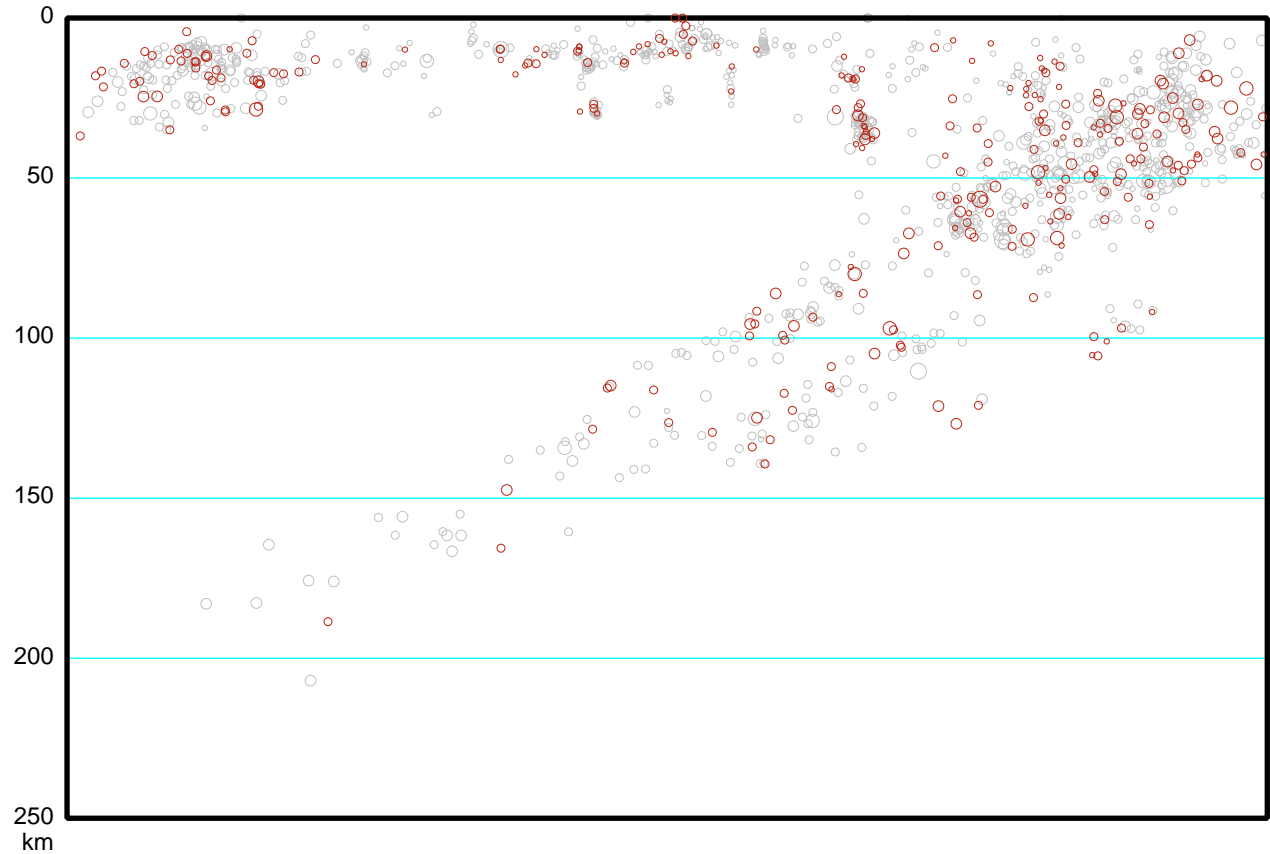
この活動図は、函館地方気象台のホームページに掲載しておりますのでご利用ください。
ホームページのアドレスは、「<https://www.jma-net.go.jp/hakodate-c/>」です。

2020年1月1日 ~ 2020年1月31日

震央分布図



断面図



これは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
記号Mはマグニチュードを表します。
過去の地震活動と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。

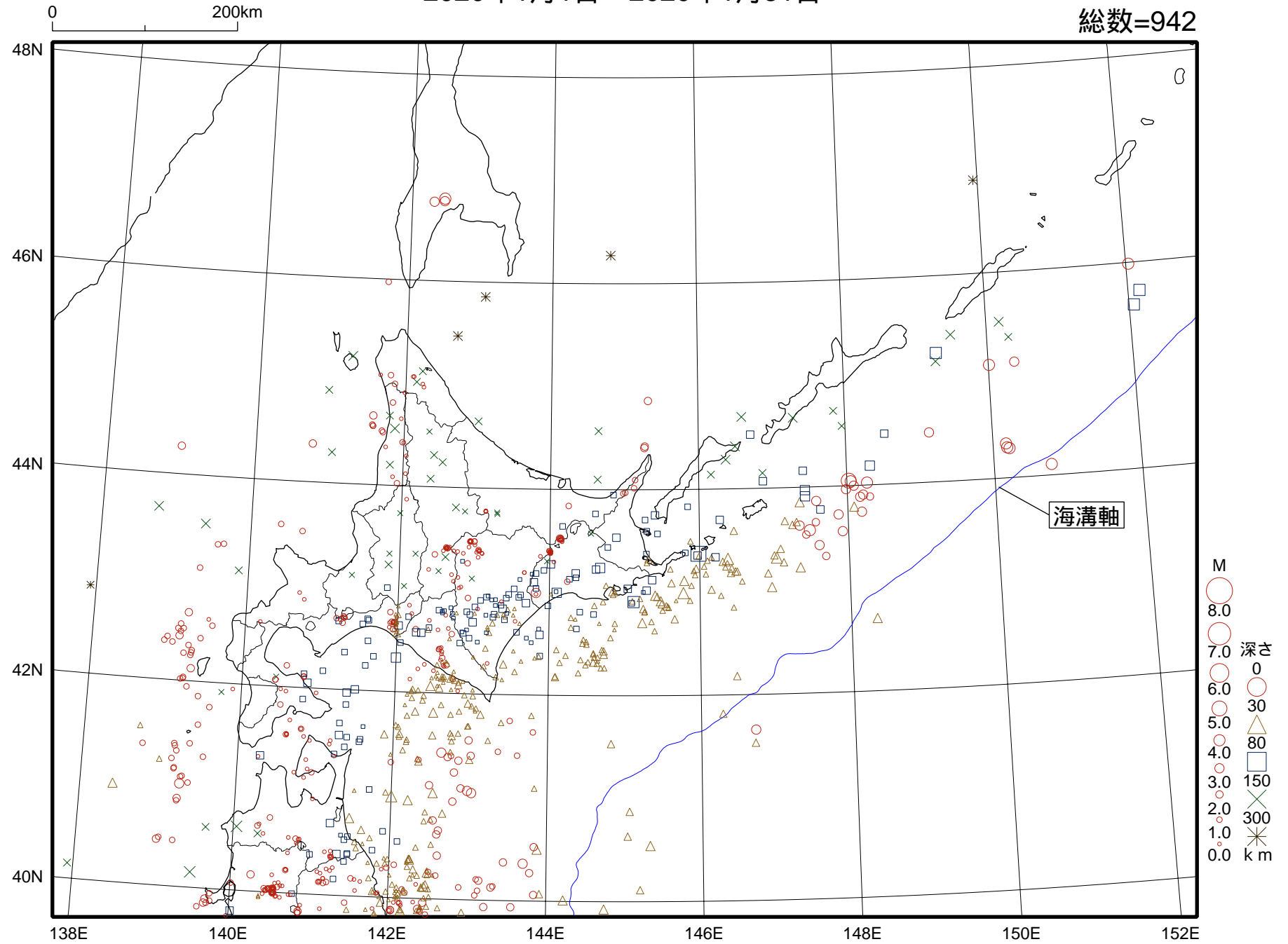
北海道の地震活動図

2020年1月1日 ~ 2020年1月31日

札幌管区気象台

震央分布図

総数=942



震度 1 以上を観測した地震の表 (2020年1月)

年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (k m)	規模 (M)
2020年 1月 1日 渡島地方	10時12分 震度 1	浦河沖 函館市泊町 * (08)	41 ° 48.5 N	142 ° 30.4 E	69 k m	M3.6
2020年 1月28日 渡島地方	10時36分 震度 1	根室半島南東沖 函館市泊町 * (10)	43 ° 22.4 N	145 ° 59.0 E	96 k m	M5.5
2020年 1月28日 渡島地方	19時13分 震度 1	青森県東方沖 函館市泊町 * (08)	40 ° 58.9 N	142 ° 00.1 E	57 k m	M4.2

各地の震度は、渡島・檜山地方のみを掲載しています。

* のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

地震概況ではセントロイドの深さで表現した地震が含まれている場合があります。

震源の緯度、経度、深さ、規模は暫定値であり、データは後日変更することがあります。

()内の数値は0.1単位の詳細な震度(計測震度)の小数点を省略して表しています。

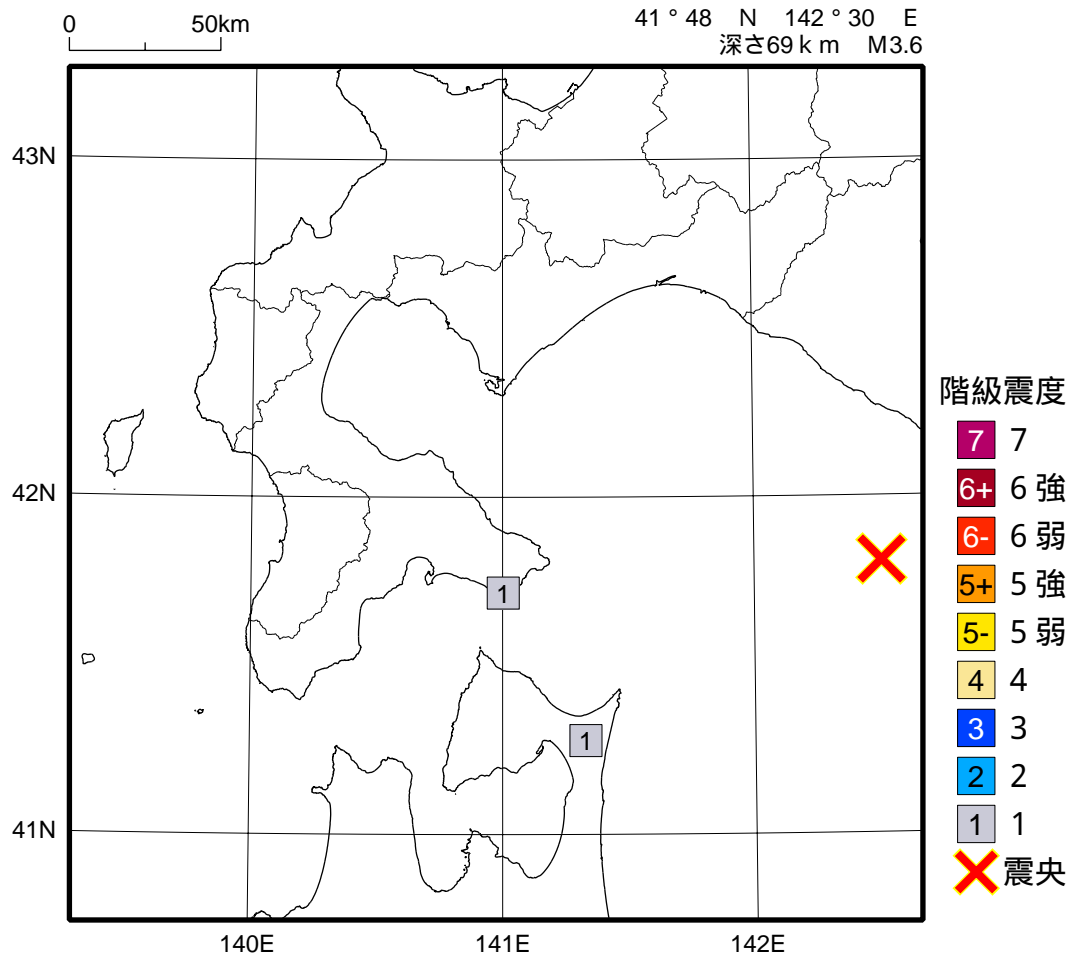
計測震度と震度階級の対応は下表のとおりになっています。

計測震度と震度階級の関係

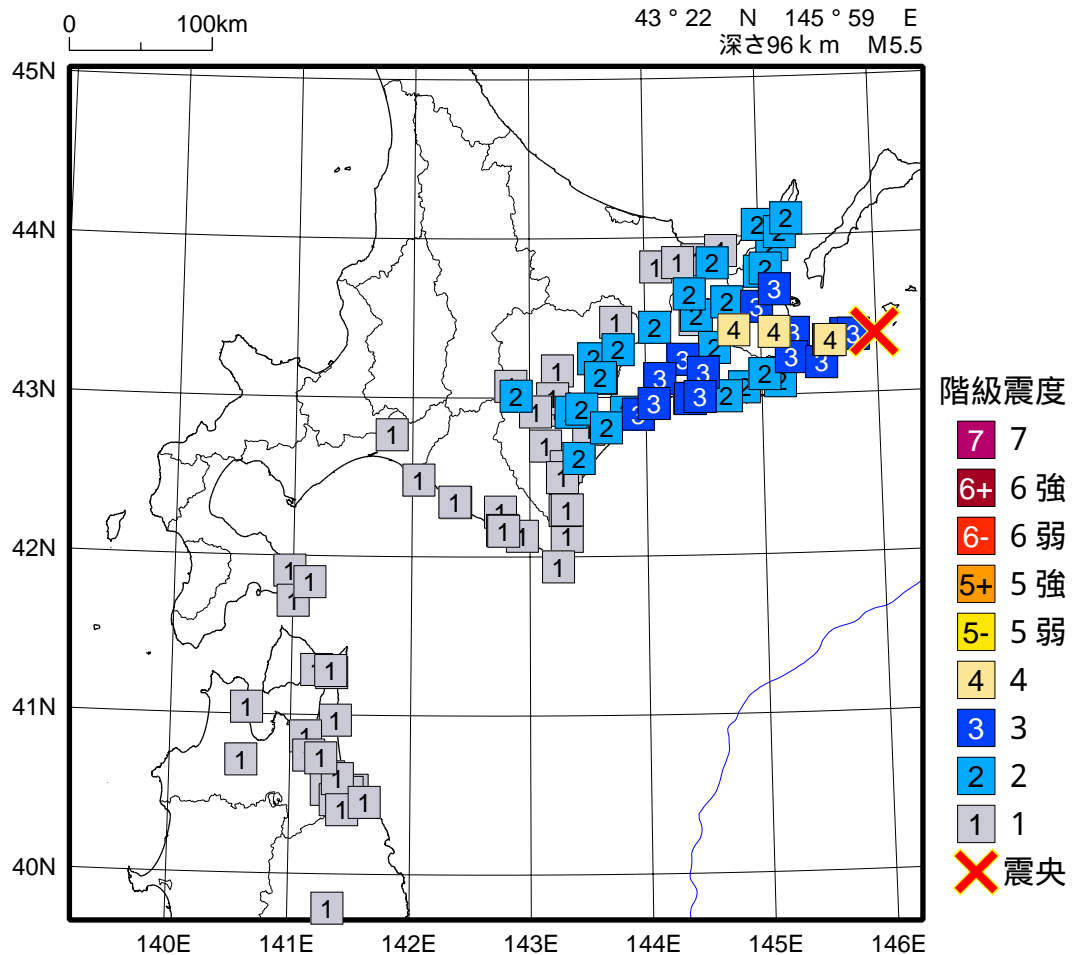
計測震度	~ 0.4	0.5 ~ 1.4	1.5 ~ 2.4	2.5 ~ 3.4	3.5 ~ 4.4	4.5 ~ 4.9	5.0 ~ 5.4	5.5 ~ 5.9	6.0 ~ 6.4	6.5 ~
震度階級	0	1	2	3	4	5 弱	5 強	6 弱	6 強	7

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

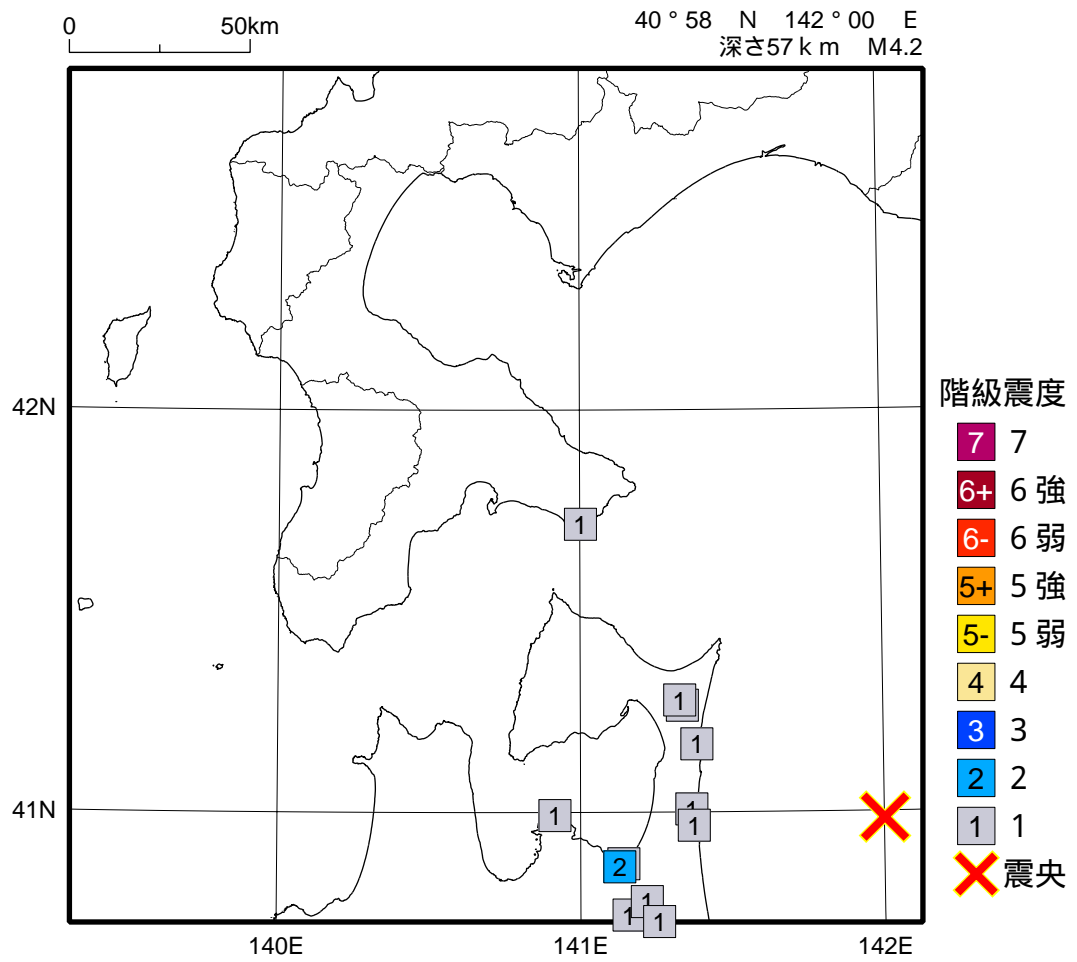
2020年 1月 1日10時12分 浦河沖の地震の震度分布図



2020年 1月28日10時36分 根室半島南東沖の地震の震度分布図



2020年 1月28日19時13分 青森県東方沖の地震の震度分布図



【防災メモ】

～地震発生のしくみとプレートテクトニクス～

地震は地下の岩盤がずれることによって発生する現象です。例えば、木の枝を曲げようと力を入れると、反発して跳ね返ってきます。また、木の枝が力に耐えられなくなると、ひびが入ったり折れたりします。このようなことが地下の岩盤にも起こっています。この地下の岩盤にかかる力は、「プレートテクトニクス」という説による地球表面を覆うプレートの動きが深く関わっていると考えられています。

地球の内部は中心から、核（内核、外核）、マントル（下部マントル、上部マントル）、地殻という層構造になっていると考えられています（図1）。このうち、地殻と上部マントルのうち地殻に近い部分は硬い板状の岩盤となっていて「プレート」と呼ばれています。地球の表面は十数枚のプレートに覆われています。

プレートは地球内部で対流しているマントルの上にあるので、マントルの対流の力で少しずつ動いています。プレートどうしがぶつかったり、すれ違ったり、片方のプレートがもう一方のプレートの下に沈み込んだりしているため、プレートの境界付近には強い力がかかっています。この力によって地震が発生しているのです（図2）。

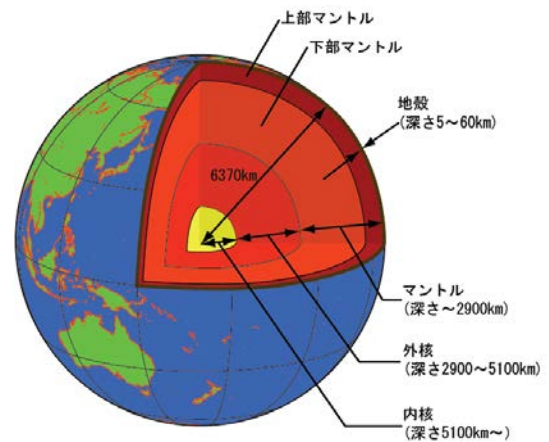


図1 地球の内部構造の模式図

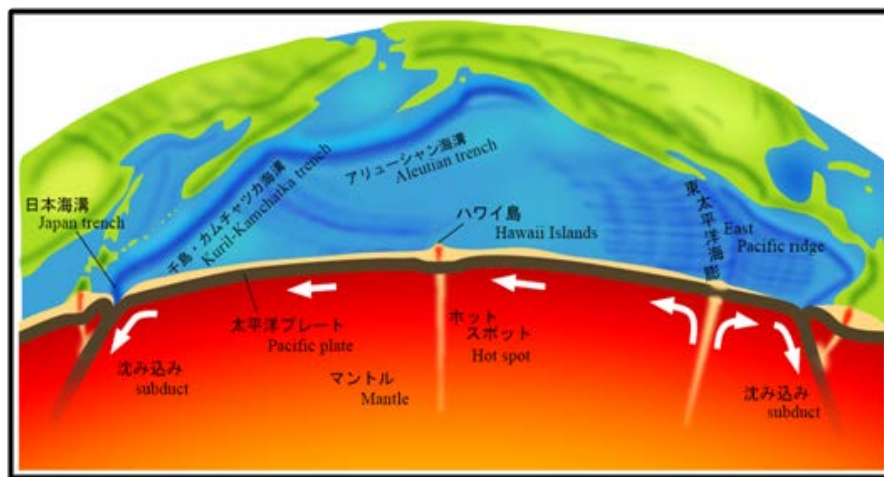


図2 プレート運動の模式図

世界の地震発生場所を見てみると、地震が発生する場所と発生しない場所がはっきりと分かれています。地震が多く発生する場所はプレート境界であると考えられている場所です（図3）。ただし、全ての地震がプレート境界で発生しているわけではなく、ハワイや中国内陸部といったプレート内部で発生する地震もあります。

日本周辺では、海のプレートである太平洋プレート、フィリピン海プレートが、陸のプレート（北米プレートやユーラシアプレート）の方へ1年あたり数 cm の速度で動いて陸のプレートの下に沈み込んでいます（図4）。このように、複数のプレートによって複雑な力がかかっているため、世界で発生する地震のおよそ1割が日本周辺で発生しています。

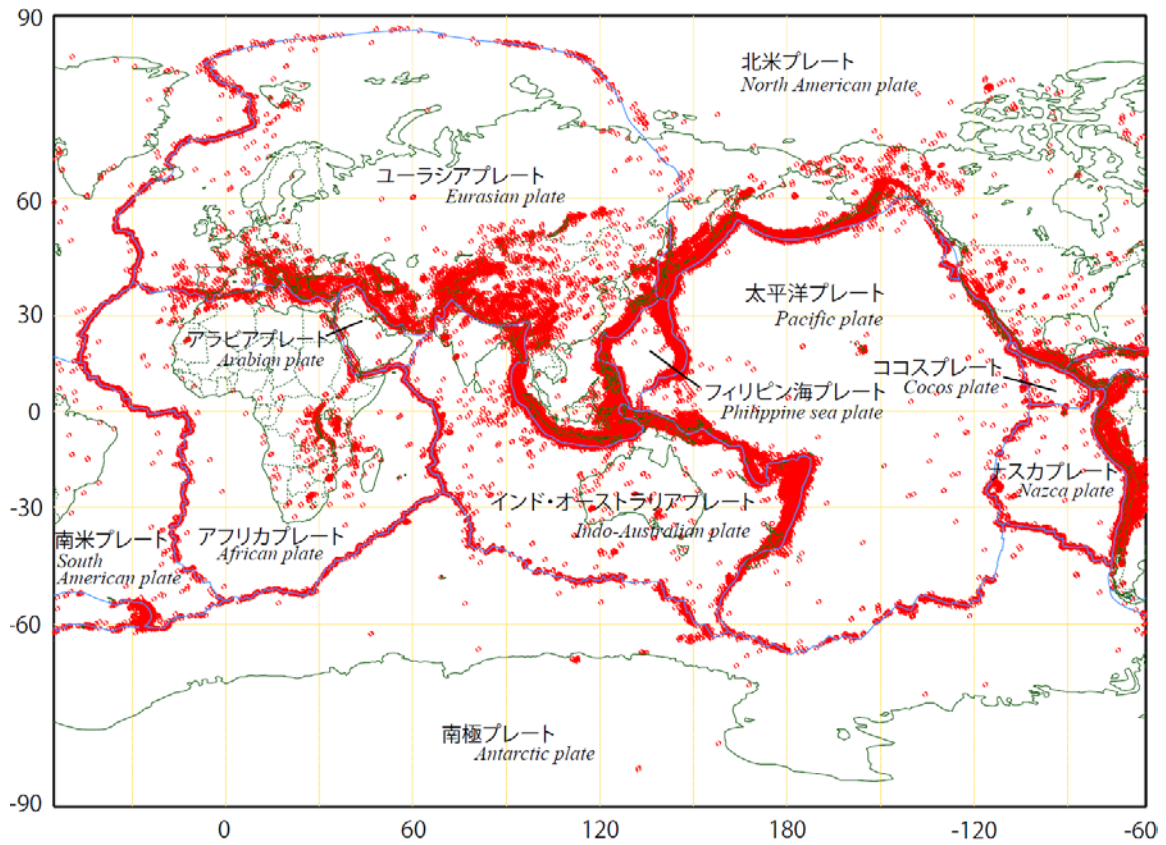


図3 世界の主なプレートと地震の分布

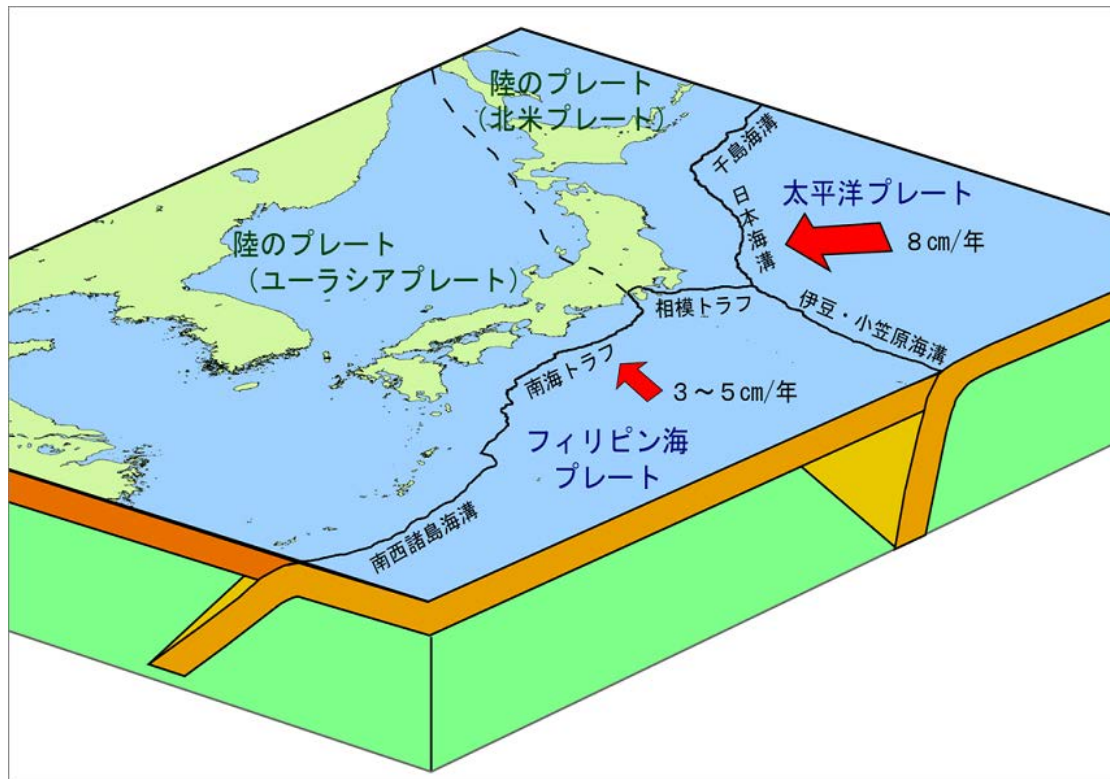


図4 日本付近のプレートの模式図

図は全て気象庁 HP https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/jishin/about_eq.html